2026

# 2026 科目ガイド

【II 部２年制写真科】

日本写真芸術専門学校

| 2026 | 区分 | 必修 | 対象 | Ⅱ部2年制1年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | 写真表現基礎演習 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 植田 真紗美 | | |
| 授業概要 | 写真を撮る！という行為は、カメラというメカニカルな道具を使い、感性を伴った眼で視た事象を記録・定着させる作業です。写真表現には様々な技法があります。それがどのように表現に関わっていくのかを実習によって学ぶ授業です。他者に伝える意図・撮影の目的を明確にし、映像化する為の基礎を身につける。それがこの授業の柱です。<br>写真も身体表現です。たくさんシャッターを押して、たくさんプリントして、たくさん写真を観ることです。<br>写真に費やした努力を、写真は裏切りません。体で憶えましょう。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 写真の主題 | オリエンテーション/組み写真と単写真について/課題1『自己』発表 |
| | 2 | カメラワーク | 露出・ピント・WBを使った表現を知る/課題1講評 |
| | 3 | カメラワーク | シャッタースピード・絞りを使った表現を知る/課題1講評 |
| | 4 | 全体講評 | 課題1の合評/課題2『三社祭』（フレーム・アングル・ディスタンスを |
| | 5 | 撮影実習 | 課題2『三社祭』屋外撮影を実施 |
| | 6 | 撮影実習 | 課題2『三社祭』屋外撮影を実施 |
| | 7 | 全体講評 | 課題2『三社祭』 |
| | 8 | 全体講評 | 課題2『三社祭』 |
| | 9 | レンズワーク | 課題3『我が町』広角レンズ、望遠レンズを使った表現 |
| | 10 | 中間講評 | 課題3『我が町』“現在”を5枚、“過去”を5枚で構成 |
| | 11 | 中間講評 | 課題3『我が町』 |
| | 12 | 全体講評 | 課題3のまとめ |
| | 13 | 中間講評 | 前期末中間審査 |
| | 14 | 中間講評 | 前期末中間審査 |
| | 15 | まとめ | 期末審査について |
| 後期 | 1 | | /課題4発表 |
| | 2 | 中間講評 | 課題4 |
| | 3 | 中間講評 | 課題4 |
| | 4 | 全体講評 | 課題4のまとめ |
| | 5 | 撮影実習 | 課題5 『〇〇一日』屋外撮影を実施 |
| | 6 | 撮影実習 | 課題5 『〇〇一日』屋外撮影を実施 |
| | 7 | 全体講評 | 課題5の合評 |
| | 8 | 全体講評 | 課題5の合評 |
| | 9 | | /課題6発表 |
| | 10 | 中間講評 | 課題6 |
| | 11 | 中間講評 | 課題6 |
| | 12 | 全体講評 | 課題6のまとめ |
| | 13 | 中間講評 | 進級審査課題中間審査 |
| | 14 | 中間講評 | 進級審査課題中間審査 |
| | 15 | まとめ | 進級審査について |

| 評価方法 | 出席及び熱意　作品の完成度（写真のうまさだけでは評価しない） |
|---|---|
| テキスト | 図書館の写真集等 |

| 2026 | 区分 | 必修 | 対象 | Ⅱ部2年制1年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | 写真撮影基礎演習 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前期 | 単位数 | 3 |
| 講師名 | 五十嵐 太二 | | |
| 授業概要 | 写真を通して人に何かを伝えるには、被写体の状態を的確に捉え、最適な機材の選択と設定が必要になります。この授業は表現そのものではなく、自分が伝えたい内容を表現するための基本的な撮影技術、カメラやレンズなど機材の特性を理解すること、そして将来、様々な分野に進むために不可欠となる技術的土台を作ることを目的とします。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | カメラの点検 | オリエンテーション。カメラの点検法・実写 |
| | 2 | カメラの仕組 | 一眼レフの仕組みと特性・写真の三大失敗 |
| | 3 | 露出① 絞り | 適正露出、絞りの表現効果、被写界深度 |
| | 4 | 露出②シャッター | シャッタースピードの効果、相反則 |
| | 5 | 露出③ | EV、露出補正、ヒストグラムの見方 |
| | 6 | フラッシュ① | 同調速度、ＧＮ、調光、ストロボを使用した様々な撮影法 |
| | 7 | フラッシュ② | 同調速度、ＧＮ、調光、ストロボを使用した様々な撮影法 |
| | 8 | 画面構成① | 構図、画面構成（アングル、ポジション、ディスタンス） |
| | 9 | 画面構成② | レンズの効果・画角とパース・焦点距離、前期のまとめ |
| | 10 | 作品講評 | 撮影技術の基礎を確認 |
| | 11 | 写真用品解説 | フィルターの種類と使い方、三脚の使用法と選び方 |
| | 12 | 光源と色① | 光の種類、ライティングポジション（順光、逆光、斜光etc） |
| | 13 | 光源と色② | デジタルカメラの特性、ＷＢの解説 |
| | 14 | 撮影マナー | 撮影時のマナーやルール |
| | 15 | まとめ | 不明点等をクリアにする |
| 後期 | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| | 4 | | |
| | 5 | | |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |

| 評価方法 | 出席、習熟度、課題作品、授業態度などを総合的に評価。 |
|---|---|
| テキスト | 授業配布プリント |

| 2026 | 区分 | 必修 | 対象 | Ⅱ部2年制1年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | スタジオ演習 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 佐藤 和恵 | | |
| 授業概要 | スタジオ演習では、プロを志す人が撮影において必要となる基本的な光の種類やライティング、撮影までのプロセスを、1年生で身につけるべき基礎的な知識と技術を中心に、順序立てて学んでいきます。<br>実習では、撮影機材の種類から使い方までを年間を通して学習し、自分自身の写真表現に結びつくフレームワークやライティング方法、露光の調整、イメージづくりなどを、実習を通して身につけていきます。<br>学生一人ひとりが興味を持てる授業内容とし、個々の相談にも対応していきます。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | オリエンテーション | 年間説明、カメラの使い方、カメラの種類 |
| | 2 | 写真基礎① | 撮影に必要な基礎的な知識の説明① |
| | 3 | 写真基礎② | 撮影に必要な基礎的な知識の説明② |
| | 4 | スタジオ機材の扱い方① | スタジオ撮影に使用する機材の種類と説明 |
| | 5 | スタジオ機材の扱い方② | 大型ストロボの使い方 |
| | 6 | 光について① | 露出計を使用した露出の考え方 |
| | 7 | 光について② | 光の種類を知って、光をコントロールする① |
| | 8 | 光について③ | 光の種類を知って、光をコントロールする② |
| | 9 | 光について④ | 光の質感について① |
| | 10 | 光について⑤ | 光の質感について② |
| | 11 | 撮影環境を整える | 撮影環境の整え方、テザー撮影について |
| | 12 | 商品撮影の種類① | 商品撮影の種類とその方法① |
| | 13 | 商品撮影の種類② | 商品撮影の種類とその方法② |
| | 14 | 商品撮影の種類③ | 商品撮影の種類とその方法③ |
| | 15 | 前期のまとめ | 前期のまとめ、スタジオ演習授業内テスト |
| 後期 | 1 | イメージを表現する① | シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編① |
| | 2 | イメージを表現する② | シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編② |
| | 3 | イメージを表現する③ | 朝ごはん編 |
| | 4 | クリップオンストロボ① | クリップオンストロボ 基礎編 |
| | 5 | クリップオンストロボ② | クリップオンストロボ 応用編 |
| | 6 | イメージを表現する④ | 化粧品編① 映り込み |
| | 7 | イメージを表現する⑤ | 化粧品編② シズル |
| | 8 | イメージを表現する⑥ | 靴編 |
| | 9 | 合成を考えた撮影① | 合成を前提とした撮影を考える |
| | 10 | 合成を考えた撮影① | 合成を前提とした撮影を考える |
| | 11 | 広告制作① | グループに分かれての広告制作① |
| | 12 | 広告制作② | グループに分かれての広告制作② |
| | 13 | 広告制作③ | グループに分かれての広告制作① |
| | 14 | 広告制作④ | グループに分かれての広告制作② |
| | 15 | 後期のまとめ | 後期のまとめ、スタジオ演習 授業内テスト |
| 評価方法 | 各実習製作に於ける提出作品、理解力、積極性、授業態度による絶対評価 | | |
| テキスト | | | |

Ⅱ部2年制

| 2026 | 区分 | 必修 | 対象 | Ⅱ部2年制1年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | 画像処理Ⅰ | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 芳田　賢明 | | |
| 授業概要 | 業界標準の画像処理ソフトウェアであるAdobe Photoshopを主に用い、写真家・フォトグラファーとして必要な、RAW現像～レタッチ～インクジェットプリントの基本を学びます。<br>撮影データを自らプリントして仕上げていく作業を繰り返し行う中で、画像処理による画づくりの基本的な知識と技術の習得を目指します。<br>【到達目標】<br>・自分の作品を、RAW現像～レタッチ～プリントして仕上げる<br>・画像処理による画づくりの基本的な知識と技術を習得する<br>・期末審査で思い通りのプリントを提出できるようにする<br>・根拠のある画づくりができ、それを説明できるようにする | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 写真制作の概要を把握する | 講義：ワークフロー、写真制作・画像処理の考え方　演習：Mac、Bridge、Photoshopの基本操作 |
| | 2 | 作業環境を整える | 講義：作業環境、機材の選び方、モニターのキャリブレーション、カラー設定、データの管理、レイヤー　演習：写真のセレクト、ゴミ消し、レイヤーの基本 |
| | 3 | プリントの概要を把握する | 講義：RAW現像やレタッチを考慮した撮影、プリンターについて、用紙について、プリントの流れ　演習：プリントしてみる |
| | 4 | デジタル画像を理解する | 講義・演習：RAW撮影とJPEG撮影の違い、圧縮、保存形式、画像の仕組み（解像度・ピクセル深度）、階調、ヒストグラム |
| | 5 | RAW現像に慣れ、画づくりを理解する | 講義：RAW現像の基本、RAW現像とレタッチの違い、色味・調子・質感でつくる印象、記憶色・忠実色、評価　演習：RAW現像に慣れる |
| | 6 | | 講義：画像処理とプリント用紙、評価・設計・調整のサイクル　演習：自己作品でRAW現像～プリントをする、JPEG撮って出しと比較する |
| | 7 | | 演習：自己作品でRAW現像～プリントをする |
| | 8 | 色調補整に慣れる | 講義：加法混色・減法混色、色相・彩度・明度、トーンカーブ、色調補整の基本、調整レイヤー　演習：色調補整に慣れる |
| | 9 | | 演習：自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする |
| | 10 | 選択範囲に慣れる | 講義：視線のコントロール、選択範囲の取り方・使いどころ　演習：選択操作に慣れる |
| | 11 | | 演習：選択範囲も使い、自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする |
| | 12 | 作品を仕上げる | 講義：複数枚の画づくり　演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義） |
| | 13 | | 演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義） |
| | 14 | 質問・おさらい | 講義・演習：コンタクトシート、質問内容に応じて |
| | 15 | テスト | テスト：習得度の確認 |
| 後期 | 1 | カラーマネージメントを理解する | 講義：カラーマネージメントシステムの考え方、仕組み、実践、ワークフローへの応用、観察光源 |
| | 2 | 表現を深める | 講義：いろいろなRAW現像ソフト　演習：Lightroomの基本操作、ペンタブレットの使い方、ペンタブレットに慣れる |
| | 3 | | 講義：RAW現像の基本補正以外の活用、モノクロ表現、フィルターの活用、プリント入稿データの作成　演習：実践 |
| | 4 | | 演習：自己作品を仕上げる |
| | 5 | | 演習：自己作品を仕上げる |
| | 6 | ポートレートのレタッチ | 講義：肌レタッチの考え方　演習：肌レタッチの実践 |
| | 7 | | 演習：自己作品を仕上げる |
| | 8 | 画像合成の実践 | 講義：画像合成の考え方　演習：基本的な合成作業（同ポジションの合成、切り抜き合成、はめこみ合成） |
| | 9 | | 演習：自己作品を仕上げる |
| | 10 | 画づくりを分析する | 演習：好きな写真家の画づくりを分析・真似てみる |
| | 11 | 画像・プリントのみきわめ | 講義：画像やプリントの不良・劣化のみきわめ　演習：仕上げ実践 |
| | 12 | 作品を仕上げる | 演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義） |
| | 13 | | 演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義） |
| | 14 | 質問・おさらい | 講義・演習：質問内容に応じて |
| | 15 | テスト | テスト：習得度の確認 |

| 評価方法 | 出席、授業内課題、期末テストをベースに、授業への取り組み、作品の完成度を加味して評価します。 |
|---|---|
| テキスト | |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制1年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | 写真創作演習 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前期 | 単位数 | 3 |
| 講師名 | 馬場　智行 | | |
| 授業概要 | この授業では、前期を通して各々一つのテーマに基づく作品を制作してもらいます。それぞれのテーマに沿った写真を提出し、講評とディスカッションを行います。そこで得られた考えをもとに各自新たに撮影し、それを再び提出し、さらに講評とディスカッションを行います。これを毎週繰り返し、作品をビルドアップさせていきます。<br>その過程で、表現方法、セレクトの方法、組み方、見方、言語化などを実践的に体験してもらいます。写真とは広く深い海のようなもので、その理解は容易に到達できるものではありませんが、実践的に訓練を積み上げていくことでかなっていきます。<br><br>この授業は、写真表現における考える力と想像力を鍛え、これから始まる写真の道の導入として、それぞれにとっての下地や土台を体験の中から得ることを目的とします。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | オリエンテーション | 授業内容の説明　各自の過去の作品を使って、ディスカッション |
| | 2 | 企画発表 | 各自取り組むテーマの決定 |
| | 3 | 作品検討 | 3～5枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討 |
| | 4 | 作品検討 | 3～5枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討 |
| | 5 | 作品検討 | 3～5枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討 |
| | 6 | 作品検討 | 5～8枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討 |
| | 7 | 作品検討 | 5～8枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討 |
| | 8 | 作品検討 | 5～8枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討 |
| | 9 | 作品検討 | 8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討 |
| | 10 | 作品検討 | 8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討 |
| | 11 | 作品検討 | 8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討 |
| | 12 | 作品検討 | 8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討 |
| | 13 | 課題検討 | ポートフォリオ提出 |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| 後期 | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| | 4 | | |
| | 5 | | |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |

| 評価方法 | 課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数 |
|---|---|
| テキスト | 必要に応じて随時指定 |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制1年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | 暗室表現演習 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前期 | 単位数 | 3 |
| 講師名 | 松井 寛泰 | | |
| 授業概要 | この授業はモノクロフィルムを使用した暗室作業を身近なものとし、今後の活動における写真表現の幅を広げることを目指します。写真の世界ではデジタルが一般的になりましたが、モノクロフィルムを使用した写真は現在でも写真表現の技法として多くの写真家が活用しています。そこでこの授業ではフィルム現像、プリント作業を中心に、伝統的な銀塩プリントを通して写真の基礎を学んでもらいます。最終的には一つのテーマで作品を制作します。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | ガイダンス | 授業の流れ　機材説明 オリジナルプリントとは |
| | 2 | 講義 | フィルム現像デモンストレーション/リールに巻く練習/機材 |
| | 3 | 現像 | フィルム現像 |
| | 4 | 講義 | プリントデモンストレーション/コンタクト/引き延ばし/機材 |
| | 5 | プリント | コンタクトプリント |
| | 6 | プリント | 引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整1 |
| | 7 | プリント | 引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整2 |
| | 8 | 現像 | フィルム現像 |
| | 9 | プリント | 焼き込み/覆い焼き |
| | 10 | プリント | プリント |
| | 11 | 現像 | フィルム現像 |
| | 12 | プリント | プリント |
| | 13 | まとめ | 作品提出 |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| 後期 | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| | 4 | | |
| | 5 | | |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |

| 評価方法 | |
|---|---|
| テキスト | |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制1年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | 写真科学 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前期 | 単位数 | 3 |
| 講師名 | 船生　望 | | |
| 授業概要 | 写真の表現は感性に基づく主観的な要素を中心に展開されますが、知識に基づく客観的な要素も必要です。現在のデジタル写真システムは主観的な要素を支援するための十分なテクノロジーを備えています。しかし、高度化・自動化が進んだ現在の撮影システムを十分に使いこなすためには、その背景にある理論をより確実に理解しておく必要があります。授業では、講義とともに、実習により理解を深めていきます。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| | 1 | 説明／講義 | ガイダンス／画像形成のあゆみ |
| | 2 | 講義 | 画像形成の基本システム（銀塩写真とデジタル写真） |
| | 3 | 講義 | カメラ |
| | 4 | 講義 | レンズ① |
| | 5 | 講義 | 画像のファイル形式 |
| | 6 | 講義 | 露出の概念と露出計 |
| | 7 | 講義 | 光と色 |
| | 8 | 講義 | ストロボ |
| | 9 | 講義 | レンズ② |
| | 10 | 講義 | コンピュータディスプレイ |
| | 11 | 講義 | プリンタ |
| | 12 | 講義 | 記録メディア |
| | 13 | 講義 | 写真制作システムの概要とまとめ |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| | 4 | | |
| | 5 | | |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |

| 評価方法 | 平常点とレポート |
|---|---|
| テキスト | 授業内配布プリント 等 |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制1年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | コマーシャル基礎ゼミ | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 後期 | 単位数 | 3 |
| 講師名 | イ　キョンソン | | |
| 授業概要 | 画面構成とライティング、コマーシャルフォトの特性を学びます。<br>イメージ広告写真模写を中心に広告表現法を習得。<br>● 照明機材及びライティング基礎知識と応用。<br>● 商品写真の良し悪しを判断する力の養成。創造、発想イメージの定着化。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| | 4 | | |
| | 5 | | |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| 後期 | 1 | テスト | 絞り、シャッタースピード、機材の使い方理解度テスト |
| | 2 | Mirror Box | 入射光、反射光を理解撮影 |
| | 3 | 課題提出 | Mirror Box、Scrap Book,自己紹介 |
| | 4 | テスト撮影 | 模写ライティング確認 |
| | 5 | Capture One | テザー撮影 |
| | 6 | 撮影 | 模写撮影 |
| | 7 | テスト撮影 | 模写商品決め、撮影方法、ライティング確認 |
| | 8 | 模写撮影 | 切り抜き撮影 |
| | 9 | 予備日 | 切り抜き撮影 |
| | 10 | 課題提出 | 模写①②提出 |
| | 11 | テスト撮影 | 模写アレンジカット、イメージ決め、ラフ提出 |
| | 12 | 撮影 | 撮影 |
| | 13 | 撮影 | 自由イメージカット① |
| | 14 | 撮影 | 自由イメージカット② |
| | 15 | 課題提出 | 作品講評 |

| 評価方法 | 出席15回(61点)10回以下点数なし /課題提出(1/5点+α) /授業態度・撮影準備 |
|---|---|
| テキスト | PDFファイル、プリント配布 |

| 2026 | 区分 | 必修 | 対象 | Ⅱ部2年制1年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | ポートレート基礎ゼミ | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 後期 | 単位数 | 3 |
| 講師名 | 出水 恵利子先生 | | |
| 授業概要 | スタジオワークを基本とし、スタジオ機材の使用方法を習得をし、被写体への取り組み方や自分の撮っていきたいゼミや方向性などを明確にし、写真を撮る基本知識を高める事を目的とします。ライティングの基礎、セッティング等スタジオのワークフローを習得します。機材はストロボを使用。授業の内容にあわせて必ず自分のカメラ、露出計、メディアを持参して下さい。レンズは、授業内貸し出しをします。必要に応じて撮影被写体に必要な小物を各自で用意して下さい。必ず自分で露出を計り露出決定を行いピントを合わせて撮影に取り組んで下さい。基本課題提出は無い代わりに、出席し、技術を習得し、授業の時間内スタジオで仕上げること。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| | 4 | | |
| | 5 | | |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| 後期 | 1 | 授業説明と基礎 | 機材の基本的知識の確認。機材の使用、組み方の基本。 |
| | 2 | 基本ライティング1 | 基礎ライティングの構築 |
| | 3 | 基礎ライティング2 | アンブレラを活用／基礎ライティングの構築 |
| | 4 | 基本ライティング3 | バンクを活用／基礎ライティングの構築 |
| | 5 | 基礎ライティング4 | デュフューザーを活用／ライティングの構築 |
| | 6 | 背景のライティング | 背景イメージライティング |
| | 7 | 基礎ライティング5 | イメージライティング／白バック |
| | 8 | 基礎ライティング6 | イメージライティング／黒バック |
| | 9 | テスト | イメージライティング・自由 |
| | 10 | 応用 | 全身ライティング1 |
| | 11 | 応用 | 全身ライティング2 |
| | 12 | 応用 | 全身ライティング撮影 |
| | 13 | 応用 | 作品研究 |
| | 14 | 応用 | 作品研究 |
| | 15 | テスト | 作品研究撮影／講評 |

| 評価方法 | 授業態度を基本とし理解度や出欠席の総合評価とします。※1回休むごとに（-3点）とします。 |
|---|---|
| テキスト | 玄光社／ポートレイトライティング |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制1年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | フォトクリエイティブ基礎ゼミ | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 後期 | 単位数 | 3 |
| 講師名 | 馬場 智行 | | |
| 授業概要 | 後期全15回の授業を通して、一つのテーマに基づき作品を制作してもらいます。前期からテーマのある人はそれを引き継ぎ制作を始め、テーマのない人は取り組むテーマの設定から始めます。“何を、何時、どのように撮るべきか”“どのようなコンセプトを必要とするか”を、毎週の講評・ディスカッションを通して検討し、それに基づき制作を進めていきます。<br><br>また、そのディスカッションを通して自身と作品との関係性を探っていき、作品の言語化についても練習していきます。この授業は、これからの作品制作における基礎的な力を実践的に身につけていくことと、自身の作品についてしっかりと説明できるようになることを目標とします。<br><br>写真の表現方法や、どのような言葉で語るべきかなど、これらの選択肢は数多くあります。その多くの選択肢の中から何を選択していくべきなのか、その基準をそれぞれが自身の内に構築していくことを目指します。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| | 4 | | |
| | 5 | | |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| 後期 | 1 | テーマの模索と検討 | 過去の作品を基に後期に取り組むテーマを検討 |
| | 2 | 作品検討 | テーマに沿った作品を持ち寄り考察 |
| | 3 | 作品検討 | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 |
| | 4 | 作品検討 | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 |
| | 5 | 作品検討　文章化 | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察　言語 |
| | 6 | 作品検討　文章化 | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察　文章 |
| | 7 | ステートメントの考察 | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察　効果的なステートメントの考察 |
| | 8 | 見せ方を考える | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察　効果的な見せ方の考察 |
| | 9 | ステートメントの考察 | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察　ステートメントの考察 |
| | 10 | 見せ方を考える | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察　見せ方の考察２ |
| | 11 | 作品検討　編集 | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察　編集の考察１ |
| | 12 | 作品検討　編集 | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察　編集の考察２ |
| | 13 | 作品検討　編集 | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察　編集の考察３ |
| | 14 | 作品検討　編集 | 前回の考察を基に進展した作品をさらに考察　編集の考察４ |
| | 15 | まとめ | これまでのまとめ |

| 評価方法 | 出席及び課題提出、授業中の作品提示回数で判断 |
|---|---|
| テキスト | 必要に応じて随時指定します |

| 2026 | 区分 | 必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | 画像処理Ⅱ | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 羽立　孝 | | |
| 授業概要 | Aiも盛んに写真の編集に使われていますが、目で見て近くしながら手作業で行うことの差は明確に存在しています。<br>その“違い”を認識すること、また判断できるようになること、またそれらを技術として身につけること、を焦点としていきます<br>予習及び復習を十分に行い、日々のレタッチに活かしていくようにしましょう<br><br>【到達目標】<br>・Photoshopを使えると言えるようになること | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 概要 | ペンタブレット・Bridge |
| | 2 | RAW現像 | ヒストグラム、色情報を見る |
| | 3 | テザー撮影 | 撮影環境を整える(SONY,CANON,NIKON,Fuji,Pana) |
| | 4 | Photoshop | レイヤーの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ) |
| | 5 | 選択範囲 | 選択範囲およびマスクの概要 |
| | 6 | パス① | パスの概要 |
| | 7 | パス② | パスの選択、使い方 |
| | 8 | パス③ | パスを組み合わせて使う |
| | 9 | 選択範囲 | 色 |
| | 10 | 選択範囲 | 輝度 |
| | 11 | マスク | 復習 |
| | 12 | トーンカーブ① | ブラシの概要及び使い方 |
| | 13 | トーンカーブ② | ブラシ&情報 |
| | 14 | 小テスト | 前期内容について |
| | 15 | 復習 | |
| 後期 | 1 | 導入 | 前期の復習および補足 |
| | 2 | スマートオブジェクト | 概要 |
| | 3 | スマートオブジェクト | 変形 |
| | 4 | スマートオブジェクト | フィルター |
| | 5 | スマートオブジェクト | ゆがみ |
| | 6 | スマートオブジェクト | 応用 |
| | 7 | スマートオブジェクト | 背景延ばし |
| | 8 | 描画モード | スクリーン |
| | 9 | 描画モード | 乗算 |
| | 10 | 描画モード | 乗算 |
| | 11 | 描画モード | 乗算 |
| | 12 | 描画モード | オーバーレイ |
| | 13 | 描画モード | オーバーレイ＆カラー |
| | 14 | 小テスト | 後期内容について |
| | 15 | 復習 | |

| 評価方法 | 出席および授業参加率、授業ごとの習熟度、テスト |
|---|---|
| テキスト | 事前配布 |

| 2026 | 区分 | 必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | ゼミナール（コマーシャルフォトゼミ） | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 赤坂 トモヒロ | | |
| 授業概要 | このゼミでは、これまで学んできた商品撮影の技術・知識をより深めるとともに、卒業作品展や卒業後を見据えたポートフォリオ制作など、学生生活の集大成としての作品作りを行っていきます。前期は与えられた課題を精密にこなしくていくことを中心に進め、後期は学生自らがテーマを設定して作品を撮っていくことを中心にしつつ、作品に対して講師から与えられる課題をクリアしていくことで完成度を高めていきます。各回ごとにレタッチや合成を行なった画像を翌週の授業内で提出し、個別に講評を行います。ただし、学生の習熟度や技術レベル、卒業後の進路に応じて、授業の進め方や内容は柔軟に変えていく予定です。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 授業内容の説明 | オリエン。講師の用意した商品の撮影を通じて広告写真の基本的な考え方を学ぶ。 |
| | 2 | 基本の再確認① | 前年度の復習を兼ねて基本的な切り抜き撮影を行う |
| | 3 | 基本の再確認② | ①の続き |
| | 4 | 基本の再確認③ | ①②の応用やイメージカットについて再確認する |
| | 5 | 基本の再確認④ | ③の続き |
| | 6 | 課題撮影① | 講師の提示する課題作品を模写する |
| | 7 | 課題撮影② | 講師の提示する課題作品を模写する |
| | 8 | 課題撮影③ | 講師の提示する課題作品を模写する |
| | 9 | 課題撮影④ | 講師の提示する課題作品を模写する |
| | 10 | 課題撮影⑤ | 講師の提示する課題作品を模写する |
| | 11 | 課題撮影⑥ | 講師の提示する課題作品を模写する |
| | 12 | 課題撮影⑦ | 講師の提示する課題作品を模写する |
| | 13 | 課題撮影⑧ | 講師の提示する課題作品を模写する |
| | 14 | リクエストテーマ① | より深めたい内容や技術に対し、個別の要望に応じた授業内容にする予定 |
| | 15 | リクエストテーマ② | より深めたい内容や技術に対し、個別の要望に応じた授業内容にする予定 |
| 後期 | 1 | 作品撮り | 各自が自らのテーマに沿って作品制作を進めていく |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| | 4 | | |
| | 5 | | |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |

| 評価方法 | 出席状況および課題の提出状況等 |
|---|---|
| テキスト | 無し |

| 2026 | 区分 | 必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | ゼミナール（ファッションポートレートゼミ） | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 倭田　宏樹 | | |
| 授業概要 | ファッションフォトグラファーに求められるものは技術や知識も大切ですが、独創性と協調性です。<br>既成概念に捉われず、流行を組み上げ、独自のセンスを築く事はこれからのベースであり、道しるべでもあります。<br>『学ぶ』からより『実践』『作品制作』にベースを移行し、授業では主にテーマに沿って独自の感性を形にしていきます。他の生徒達と同じモデルで同じテーマを元に撮影していきます。<br>撮影後は皆んなで写真を展示し、皆んなで評価をつけます。己の形に導き、創り上げていく事が目標です。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 説明 | 授業内容説明 |
| | 2 | 授業 | Capture One 講習 |
| | 3 | 照明授業 | ライティング授業　1灯ライトのバリエーション |
| | 4 | 照明授業 | ライティング授業　色表現 |
| | 5 | 授業 | 次回撮影プラン制作 |
| | 6 | 撮影 | 課題テーマ撮影『B/W』1 |
| | 7 | 撮影 | 課題テーマ撮影『B/W』2 |
| | 8 | 合評、検討 | 前回の撮影合評、次回撮影プラン制作 |
| | 9 | 撮影 | 課題テーマ撮影『street』1 |
| | 10 | 撮影 | 課題テーマ撮影『street』2 |
| | 11 | 照明授業 | ライティング授業　拡散光 |
| | 12 | 合評、検討 | 前回の撮影合評、次回撮影プラン制作 |
| | 13 | 撮影 | 課題テーマ撮影『ennui』1 |
| | 14 | 撮影 | 課題テーマ撮影『ennui』2 |
| | 15 | 合評、検討 | 前回の撮影合評、次回撮影プラン制作 |
| 後期 | 1 | 撮影 | テーマ撮影『組写真』1 |
| | 2 | 撮影 | テーマ撮影『組写真』2 |
| | 3 | 合評、検討 | 前回の撮影合評、次回撮影プラン制作 |
| | 4 | 撮影 | テーマ撮影『elegant』1 |
| | 5 | 撮影 | テーマ撮影『elegant』2 |
| | 6 | 合評、検討 | 前回の撮影合評、次回撮影プラン制作 |
| | 7 | 撮影 | テーマ撮影『music』1 |
| | 8 | 撮影 | テーマ撮影『music』2 |
| | 9 | 合評、検討 | 前回の撮影合評、次回撮影プラン制作 |
| | 10 | 撮影 | テーマ撮影『minimal』1 |
| | 11 | 撮影 | テーマ撮影『minimal』2 |
| | 12 | 検討 | 次回撮影プラン制作、卒業審査の経過提出 |
| | 13 | 撮影 | テーマ撮影『own style』1 |
| | 14 | 経過報告 | テーマ撮影『own style』2 |
| | 15 | 総括 | 前回の撮影合評一年の総括 |
| 評価方法 | 出席、授業態度、表現力、テーマ提出物 | | |
| テキスト | | | |

| 2026 | 区分 | 必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | ゼミナール（ドキュメンタリーフォトゼミ） | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 齊藤 小弥太 | | |
| 授業概要 | 作品を制作するためには、他者（人間や自然など、私たちを取り巻く世界全般）に対する理解と、作者自身に対する理解の双方が必要になります。<br>作品制作を通して他者と向き合い、また自分自身と向き合うことで、作品は生まれます。作品制作は決して簡単なことではありませんが、諦めずに向き合い続けることで、作者自身の眼差しが少しずつ形づくられていきます。頑張りましょう。<br>授業では年間テーマを設定し、それに基づいて撮影に取り組んでいただきます。また、作品の講評に加え、作品制作のための講座も行います。<br>最終的には、同一テーマで制作された30枚の組み写真を提出していただきます。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 授業説明 | 授業内容、授業予定、テーマ設定などの確認 |
| | 2 | 合評 | 組み写真についての基礎講座、テーマに沿った作品の提出。 |
| | 3 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 4 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 5 | 合評 | ステイトメントについて基本講座。テーマに沿った作品の提出。 |
| | 6 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 7 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 8 | 合評 | プリントについての基本講座。テーマに沿った作品の提出。 |
| | 9 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 10 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 11 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 12 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 13 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 14 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 15 | 合評 | 同一のテーマで制作された作品15枚を提出。採点を行う。 |
| 後期 | 1 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 2 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 3 | 合評 | 学生の作品に合わせた作品集、作品の紹介。 |
| | 4 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 5 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 6 | 合評 | 学生の作品に合わせた作品集、作品の紹介。 |
| | 7 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 8 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 9 | 合評 | 学生の作品に合わせた作品集、作品の紹介。 |
| | 10 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 11 | 合評 | テーマに沿った作品の提出。 |
| | 12 | 合評 | 卒業作品展に向けての準備期間 |
| | 13 | 合評 | 卒業作品展に向けての準備期間 |
| | 14 | 合評 | 卒業作品展に向けての準備期間 |
| | 15 | 作品審査 | 同一のテーマで制作された作品30枚を提出 |

| 評価方法 | 授業での提出作品の採点をもとに評価、出席状況も考慮します。 |
|---|---|
| テキスト | |

| 2026 | 区分 | 必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年 |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | ゼミナール（フォトクリエイティブゼミ） | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 鈴木 のぞみ | | |
| 授業概要 | 本授業では、概念地図の制作を通して自身の関心や問題意識を可視化し、写真作品のテーマ構築へと発展させる思考プロセスを学ぶ。具体的には、アイディア出しのブレインストーミング、バラバラなアイディアの空間配置、図解化、文章化（ステートメント）、作品検討を段階的に行い、制作意図の明確化と展示構成力の向上を目指す。期末作品および卒業制作に向けて、テーマ設定から作品構成、プレゼンテーションまでを一貫した実践として修得する。<br>【到達目標】<br>・自身の関心・経験・問題意識を言語化し、視覚的に構造化できる。<br>・概念地図から導き出したテーマやコンセプトから作品を完成させる。<br>・自身の作品意図をステートメントとして明確に伝えられる。<br>・他者の作品に対し積極的に意見を述べられる。<br>・卒業制作に向けた制作計画を主体的に立案できる。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | ガイダンス | 講師の作品紹介　各自の自己紹介 |
| | 2 | 自己紹介 | マインドマップの制作と自己紹介 |
| | 3 | 作品検討 | 各自の作品検討 |
| | 4 | 概念地図WS① | ブレインストーミングでアイディアをたくさん出す |
| | 5 | 概念地図WS② | ブレインストーミングでアイディアをたくさん出す |
| | 6 | 概念地図WS③ | バラバラなアイディアの関係性を探りながら空間配置 |
| | 7 | 概念地図WS④ | バラバラなアイディアの関係性を探りながら空間配置 |
| | 8 | 展覧会鑑賞 | 展覧会鑑賞 |
| | 9 | 作品検討 | 各自の作品検討 |
| | 10 | 概念地図WS⑤ | 概念地図の図解化 |
| | 11 | 概念地図の発表 | 各自の概念地図の発表 |
| | 12 | 作品検討 | 各自の作品検討 |
| | 13 | ステートメント | 概念地図をもとに各自のステートメントの発表と作品検討 |
| | 14 | 期末作品検討 | 各自の作品検討 |
| | 15 | 期末作品検討 | 期末作品のゼミ内審査 |
| 後期 | 1 | テーマ設定 | 概念地図をもとに各自のテーマ設定 |
| | 2 | 作品検討 | 各自の作品検討 |
| | 3 | 概念地図WS① | ブレインストーミングで卒制に向けたアイディアをたくさん出す |
| | 4 | 概念地図WS② | バラバラなアイディアの関係性を探りながら空間配置 |
| | 5 | 概念地図WS③ | バラバラなアイディアの関係性を探りながら空間配置 |
| | 6 | 作品検討□ | 各自の作品検討 |
| | 7 | 概念地図WS④ | 概念地図の図解化 |
| | 8 | 概念地図の発表 | 各自の概念地図の発表 |
| | 9 | ステートメント | 概念地図をもとに各自のステートメントの発表と作品検討 |
| | 10 | ポートフォリオ | ポートフォリオ制作と検討 |
| | 11 | 作品検討 | 各自の作品検討 |
| | 12 | 作品検討 | 各自の作品検討 |
| | 13 | 展示方法検討 | 多様な展示方法の紹介 |
| | 14 | 卒業制作検討 | 各自の作品検討 |
| | 15 | 卒業制作検討 | 卒業制作作品のゼミ内審査 |

| 評価方法 | 授業に対する積極性、卒展や課題に対する取り組み、作品の完成度から総合的に評価。 |
|---|---|
| テキスト | 川喜田二郎『続・発想法―KJ法の展開と応用』1970、中公新書 |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年<br>コマーシャルフォトゼミ<br>ファッションポートレートゼミ |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | 写真表現演習 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 中島 古英 | | |
| 授業概要 | 「プレゼンテーション」と「作品講評」を授業の中心に捉え、学生一人ひとりの「考える力」と「表現の精度」の向上を目指します。自身の内面や独自の視点を「写真作品」として昇華させ、自身が制作した作品を客観的に捉える機会を作ります。具体的には、他者に見せることを前提としたポートフォリオを制作、公募展等にも出品する予定です。この授業で制作した作品が、この先の就職活動や作家活動などにも役立てていけることもねらいです。<br>【到達目標】<br>独自のコンセプトを構築し、そのための表現方法を模索し、自身の作品の魅力を他者に効果的に伝えられる能力を身につけることを目標とします。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | ガイダンス | 授業の概要説明、自己紹介、 |
| | 2 | 講義 | 写真家の作品（写真集、スライドなど）を見る、知る |
| | 3 | 実習 | ポートフォリオについて考える、リサーチ、アイデア出し等 |
| | 4 | 実習 | 公募展について、リサーチ□ |
| | 5 | 実習 | 公募展に向けたアイデア出し、ディスカッション |
| | 6 | 実習 | ①プランチェック、作品制作□ |
| | 7 | 実習 | ①ディスカッション、講評 |
| | 8 | 実習 | ②プランチェック、制作 |
| | 9 | 実習 | ②ディスカッション、講評 |
| | 10 | 実習 | ③プランチェック、制作 |
| | 11 | 実習 | ③ディスカッション、講評 |
| | 12 | 実習 | ④プランチェック、制作 |
| | 13 | 実習 | ④ディスカッション、講評□ |
| | 14 | 実習 | プレゼンテーション、講評 |
| | 15 | 実習 | 公募展出品作業、ディスカッション |
| 後期 | 1 | 実習 | 公募展出品作業、ディスカッション |
| | 2 | 実習 | 公募展出品作業、ディスカッション |
| | 3 | 実習 | 公募展出品作品について講評、振り返り |
| | 4 | 実習 | 新規公募展リサーチ等 |
| | 5 | 実習 | 写真展鑑賞についてのプレゼンテーション |
| | 6 | 講義 | ライフワークの写真と、仕事の写真について |
| | 7 | 実習 | 作品制作、ディスカッション□ |
| | 8 | 実習 | 作品制作、ディスカッション□ |
| | 9 | 実習 | 作品制作、ディスカッション□ |
| | 10 | 実習 | プレゼンテーション、講評 |
| | 11 | 実習 | ポートフォリオまとめ作業、ディスカッション |
| | 12 | 実習 | ポートフォリオまとめ作業、ディスカッション |
| | 13 | 実習 | プレゼンテーション、講評 |
| | 14 | 実習 | 公募展鑑賞（校外演習） |
| | 15 | 実習 | 一年の振り返り、まとめ |

| 評価方法 | 制作物とプレゼンテーションの内容、出席率 |
|---|---|
| テキスト | その都度紹介 |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年<br>ドキュメンタリーフォトゼミ<br>フォトクリエイティブゼミ |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | 映像表現論 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 調 文明 | | |
| 授業概要 | 洞窟壁画が示すように、映像は文字よりも先に表現のメディアとして登場し、多彩な技術革新を経ながら今日にいたるまで様々な事物を外部化し後世に伝えてきました。そこで、本講義では映像の起源から端を発し、美術と写真のつながりも大いに意識しながら、ピクトリアリズム、モダニズム、戦後美術、現代美術というおおまかな時代区分にしたがいつつ、各時代の映像表現を詳細に考察していくことにします。到達目標としては、多様な映像表現のあり方を総合的に捉えることで、自身の作品制作に応用できる足場を作ることです。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 授業紹介 | イントロダクション |
| | 2 | 前史 | 映像の起源 |
| | 3 | 前史+ワークショップ | 光学機器によるイメージメイキング（＋カメラ・オブクスラ制作） |
| | 4 | 歴史概説 | 写真技術小史 |
| | 5 | ピクトリアリズム | 世紀転換期のピクトリアリズムにおける写真と絵画Ⅰ |
| | 6 | ピクトリアリズム | 世紀転換期のピクトリアリズムにおける写真と絵画Ⅱ |
| | 7 | モダニズム | モダニズムにおける芸術表現Ⅰ：未来派とフォト・ディナミズモ |
| | 8 | モダニズム | モダニズムにおける芸術表現Ⅱ：ニューヨーク・ダダ（マルセル・デュシャン）とレディメイド |
| | 9 | モダニズム | モダニズムにおける芸術表現Ⅲ：ベルリン・ダダとフォト・モンタージュ |
| | 10 | ワークショップ | フォト・モンタージュを制作する |
| | 11 | モダニズム | モダニズムにおける芸術表現Ⅳ：シュルレアリスムとオートマティスム |
| | 12 | 映像資料 | 映画技術小史 |
| | 13 | モダニズム | ドキュメンタリー映像をとおして20世紀美術を知る |
| | 14 | モダニズム | 20世紀のアメリカ近代美術Ⅰ |
| | 15 | モダニズム | 20世紀のアメリカ近代美術Ⅱ |
| 後期 | 1 | 歴史概説 | 複製技術小史 |
| | 2 | 歴史概説 | イズムからアートへ：20世紀美術と複製技術 |
| | 3 | 戦後美術 | 戦後美術をたどる：ポップアート |
| | 4 | 映像資料 | ドキュメンタリー映像をとおしてアンディ・ウォーホルを知る |
| | 5 | 戦後美術 | 戦後美術をたどる：ミニマルアート |
| | 6 | 戦後美術 | 戦後美術をたどる：コンセプチュアルアート |
| | 7 | ワークショップ | コンセプチュアルアートに基づいたアーティストブックを制作する |
| | 8 | 映像資料 | ドキュメンタリー映像をとおして現代美術を知る |
| | 9 | 現代美術 | 現代美術と写真：ファウンド・フォトを用いた表現 |
| | 10 | 現代美術 | 現代美術と写真：セルフ・ポートレイトについてⅠ |
| | 11 | 現代美術 | 現代美術と写真：セルフ・ポートレイトについてⅡ |
| | 12 | ワークショップ | ファウンド・フォトを用いたアーティストブックを制作する |
| | 13 | 写真映像試論 | 机上の写真論：写真の水平性 |
| | 14 | 写真映像試論 | 机上の写真論：ショットの修辞学 |
| | 15 | 写真映像試論 | 机上の写真論：机上のブラックボックス |

| 評価方法 | 平常点（出席日数や授業参加度など）と期末レポート（もしくは授業内課題）の総合評価。<br>ただし、授業内課題はすべて提出していることが成績評価の前提条件となります。 |
|---|---|
| テキスト | 参考文献は授業で適宜紹介します。 |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年<br>コマーシャルフォトゼミ<br>ファッションポートレートゼミ |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | ムービー制作演習 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 栗林 武 | | |
| 授業概要 | 動画制作の基礎を学ぶ。<br>Adobe Premiere Proの基本的な使い方からAdobe After Effectsを使った、映像効果・簡単なアニメーションまでを1年を通して学んでいきます。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 説明 | 授業内容説明・映像概要 |
| | 2 | 動画とは | 動画の知識・成り立ちなど |
| | 3 | 実習 | 動画撮影の方法 |
| | 4 | 実習 | 取り込みと動画編集の流れ |
| | 5 | 実習 | Premiere Pro基礎（エフェクトやトランジションについて） |
| | 6 | 実習 | Premiere Pro基礎（ムービー書き出し等） |
| | 7 | 実習 | Premiere Pro基礎（静止画のモーションについて） |
| | 8 | 実習 | Premiere Pro基礎（簡単なタイトル作成） |
| | 9 | 課題1 | 自分の写真で作品集動画を作る |
| | 10 | 実習 | 提出 |
| | 11 | 実習 | 絵コンテの説明 |
| | 12 | 実習 | 街紹介動画の説明・準備 |
| | 13 | 課題2 | 街紹介動画を作る |
| | 14 | 実習 | 〃 |
| | 15 | 実習 | 提出 |
| 後期 | 1 | 実習 | Illustrator基礎 |
| | 2 | 実習 | 〃 |
| | 3 | 実習 | 〃 |
| | 4 | 課題3 | 名刺作成 |
| | 5 | 実習 | 提出 |
| | 6 | 実習 | After Effects基礎（サンプル動画の作成） |
| | 7 | 実習 | 〃 |
| | 8 | 実習 | 〃 |
| | 9 | 実習 | 〃 |
| | 10 | 課題4 | CMのタイトル制作 |
| | 11 | 実習 | CM制作 |
| | 12 | 実習 | 〃 |
| | 13 | 実習 | 〃 |
| | 14 | 実習 | 〃 |
| | 15 | 予備日 | |

| 評価方法 | 提出された課題の完成度と出席回数 |
|---|---|
| テキスト | |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年<br>フォトクリエイティブゼミ |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | フォトクリエイティブ演習 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 田 凱 | | |
| 授業概要 | 本授業では、写真を研究するという視点から、その表現と技法を多角的に学んでいきます。いわゆる正統的な写真表現とオルタナティブ・プロセスの双方に取り組み、それぞれの課題を横断的に実践することによって、写真というメディアの特質を深く理解することを目指します。多様な技法を通して、撮影、光、支持体、複製、物質性といった写真表現の基礎要素を学びながら、各自の主題と表現方法を磨いていきます。<br>これにより、写真が単なる記録手段にとどまらず、現実を写し取りながら独自の構造や意味を生成する表現媒体であることを学びます。実践においては、写真に写り込む「現実」を捉える経験を通じて、写真というシステムがどのように成立しているのかを理解し、その成り立ちを自らの制作の中で確かめていきます。<br>また、本授業では、写真を学び、研究する過程を通して、自分自身の内面への理解を深めるとともに、外部の社会といかに関わるかを考察し、各自の作品制作の根幹を形成していくことを重視します。最終的には、各自の制作過程と表現研究の成果を統合し、写真と言語、構成、編集を含めて総合的に考察したクリエーティブなアーティストブックとしてまとめ上げることを到達目標とします。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 説明 | 授業の内容説明　個人面談 |
| | 2 | 講義<br>ディスカッション<br>講評 | 課題①　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 3 | | 課題①　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 4 | | 課題①　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 5 | | 課題①　講評・評価／次回課題発表 |
| | 6 | | 課題②　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 7 | | 課題②　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 8 | | 課題②　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 9 | | 課題②　講評・評価／次回課題発表 |
| | 10 | | 課題③　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 11 | | 課題③　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 12 | | 課題③　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 13 | | 課題③　講評・評価／次回課題発表 |
| | 14 | | 前期最終課題(課題④) |
| | 15 | まとめ | 前期最終課題(課題④) |
| 後期 | 1 | 説明 | 授業の内容説明　個人面談 |
| | 2 | 講義<br>ディスカッション<br>講評 | 課題⑤　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 3 | | 課題⑤　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 4 | | 課題⑤　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 5 | | 課題⑤　講評・評価／次回課題発表 |
| | 6 | | 課題⑥　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 7 | | 課題⑥　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 8 | | 課題⑥　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 9 | | 課題⑥　講評・評価／次回課題発表 |
| | 10 | | 課題⑦　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 11 | | 課題⑦　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 12 | | 課題⑦　経過確認・ブラッシュアップ |
| | 13 | | 課題⑦　講評・評価／次回課題発表 |
| | 14 | | 後期最終課題(課題⑧) |
| | 15 | | 後期最終課題(課題⑧) |

| 評価方法 | 出席状況に加え、授業態度、課題への取り組みの継続性、成果物の完成度を総合的に判断して行う。特に、講師とのコミュニケーションを通して、課題意識や表現方法を更新しながら取り組む姿勢を重視する。評価方法は、平常点40%、課題30%、最終成果30%とする |
|---|---|
| テキスト | 『現代写真論 コンテンポラリーアートとしての写真のゆくえ』シャーロット・コットン著、『写真論――距離・他者・歴史』港千尋著、<br>『増補 20世紀写真史』伊藤俊治著、他必要に応じて随時指定 |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年<br>ドキュメンタリーフォトゼミ |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | ドキュメンタリー演習 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 五十嵐 太二 | | |
| 授業概要 | ドキュメンタリーとは映像や文字で事実を記録したもの。記録する対象の選択から取材・編集・発表まで、作者の考えや思いと共に世界が解釈されていく。そのため、単なる記録を越え社会批判などを加えることもできる。この授業では身近な事柄や各自の関心事を題材に、写真と文字でドキュメンタリーを制作する基礎を学びます。<br><br>【到達目標】<br>ドキュメンタリーは発表することが前提。その基礎を理解してもらうのが到達目標。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 授業説明 | 授業説明、各自の関心事項を発表 |
| | 2 | テーマ① | テーマ「身近な人の得意料理」 ⇨ 取材段取り（企画書、アポ取り）とは |
| | 3 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 4 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 5 | テーマ② | テーマ「クラスメートが写真を始めたわけ」⇨ 取材準備作業 |
| | 6 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 7 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 8 | テーマ③ | テーマ「関心のある社会問題」 ⇨ 取材準備作業 |
| | 9 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 10 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 11 | ゲスト | ゲストスピーカー |
| | 12 | テーマ④ | テーマ「関心のある社会問題」 ⇨ 取材準備作業 |
| | 13 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 14 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 15 | まとめ | まとめ |
| 後期 | 1 | プレゼン技術 | 各自が好きな作家・作品発表会 |
| | 2 | テーマ⑤ | テーマ「関心のある社会問題」 ⇨ 取材準備作業 |
| | 3 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 4 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 5 | 映像の世界 | ドキュメンタリー映像 |
| | 6 | テーマ⑥ | テーマ「関心のある社会問題」 ⇨ 取材準備作業 |
| | 7 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 8 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 9 | ゲスト | ゲストスピーカー |
| | 10 | テーマ⑦ | テーマ「関心のある社会問題」 ⇨ 取材準備作業 |
| | 11 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 12 | 発表・講評 | 作品発表・全員で講評 |
| | 13 | 調整回 | 調整回 |
| | 14 | 調整回 | 調整回 |
| | 15 | まとめ | まとめ |

| 評価方法 | 課題発表、出席回数、授業態度、努力等をもとに総合的に評価。 |
|---|---|
| テキスト | 授業配布プリント・データ |

Ⅱ部2年制

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年<br>ドキュメンタリーフォトゼミ<br>フォトクリエイティブゼミ |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | スタジオライティング | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 出水 惠利子 | | |
| 授業概要 | この授業は、クラス全員がスタジオ機材の使い方、使用目的に応じたセッティング、ライティングを習得するものとする。最低限の、プロとしての仕事スキルを習得することを目的にしています。露出を測り、レンズ効果を意識し、被写他のフォルムや、イメージを持って撮影すること。グループ研究課題以外は、必ず、自分のカメラで、自分自身で、ピントを合わせ、シャッターを押し撮影すること。画像処理が前提の撮影と、撮影のみでフィニッシュする撮影があること。課題提出によって、画像処理禁止のものもあります。スタジオ器材、レンズ、PCは、授業内容に合わせて、授業貸しをします。授業中の課題提出に関わる商品は、原則、各自が用意すること。機材の用意は、事前に準備された機材を教務課から、当番制で持ってくること。当番は、白板に機材の名前、数量を書き出し、授業終了時に、確認すること。点呼以降、姿が見えない、授業中積極的に、機材のセッティングを行わない者は、減点とします。授業内容は、スキルに合わせて変更されます。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 機材の使用方法 | 機材の使い方 |
| | 2 | 基礎 | ライティングの基本 |
| | 3 | 基礎 | 基本ライティングでに撮影 |
| | 4 | 写り込み | カトラリー・点光源 |
| | 5 | 写り込み | カトラリー・面光源 |
| | 6 | 採点 | 課題提出・確認 |
| | 7 | ハイライト | 缶撮影 |
| | 8 | ハイライト | 缶撮影 |
| | 9 | 透過光 | ガラスコップ・ビン撮影 |
| | 10 | 透過光 | 透過光イメージ |
| | 11 | 透過光 | 透過光・切り抜き |
| | 12 | 自由 | 季節を考えたライティング |
| | 13 | 多投 | 三面見せ |
| | 14 | 多投 | 三面見せ切り抜き |
| | 15 | 課題確認 | 課題提出・確認 |
| 後期 | 1 | 人物 | 人物撮影・基本ライティング |
| | 2 | 人物 | 人物撮影・白バック |
| | 3 | 人物 | 人物撮影黒バック |
| | 4 | 人物 | 人物撮影全身 |
| | 5 | 人物 | 人物撮絵モデル撮影セット |
| | 6 | 人物 | 人物撮影本番 |
| | 7 | 講評 | 課題提出・確認 |
| | 8 | 応用 | 食品撮影 |
| | 9 | 応用 | 食品イメージ |
| | 10 | 応用 | パン撮影 |
| | 11 | 応用 | ケーキ撮影 |
| | 12 | 応用 | 時計撮影 |
| | 13 | 応用 | 革撮影 |
| | 14 | 応用 | 衣類撮影 |
| | 15 | 課題発表 | スライドショー最終課題発表 |

| 評価方法 | 授業採点方法は、出席と課題提出です。欠席１回につき−5点・評価点はA〜D（Dは加点無し） |
|---|---|
| テキスト | コマーシャルフォト |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年<br>コマーシャルフォトゼミ |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | スタジオアドワーク | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 市川 森一 | | |
| 授業概要 | 前期は一年生で学んだことを踏まえて、物撮りの基礎的な理解を深めます。<br>一年時よりもクオリティをあげ、広告で求められるレベルを目指すことを目標とします。<br>後期はゼミでの制作のフォローアップしつつ、各自でやりたい作品づくりのサポートをします。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 授業概要 | 年間授業計画、授業の目的について、スタジオ機材の使い方 |
| | 2 | スタジオ基礎 | ライト・ディフューザーの基礎的な考え方 |
| | 3 | スタジオ基礎 | カメラと被写体の距離による像の違いについて |
| | 4 | 切り抜き基礎 | 缶の切り抜きライティング説明 |
| | 5 | | 缶の切り抜き実践（ゼミのフォローアップ） |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | | レタッチのやり方 |
| | 9 | 透過物基礎 | ペットボトルの切り抜きライティング説明 |
| | 10 | | ペットボトルの切り抜き実践 |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | レタッチのやり方 |
| | 14 | | 前期内容フォローアップ |
| | 15 | | 前期内容フォローアップ |
| 後期 | 1 | 模写 | 任意の広告を選んで模写をすることでライティングへの理解を深める |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| | 4 | イメージ写真制作 | 任意の被写体を選びビジュアル案を考え実践する |
| | 5 | | |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | | |
| | 9 | 卒業制作サポート | ゼミで決まった作品制作について、アイデアの整理やライティングについて検証・実践する時間とする |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |

| 評価方法 | 出席・課題提出 |
|---|---|
| テキスト | |

| 2026 | 区分 | 選択必修 | 対象 | Ⅱ部2年制2年<br>ファッションポートレートゼミ |
|---|---|---|---|---|

| 科目名 | ファッションポートレート | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 6 |
| 講師名 | 河野　鉄平 | | |
| 授業概要 | この授業では、主にスタジオにおけるポートレート撮影に必要な基礎的なスキルを学びます。スタジオ内の機材の正しい使い方から、効果的なライティングの生み出し方まで、幅広く知識を深めていきます（時折、屋外でも撮影を行います）。また、ポートレート撮影では、被写体となる目の前の人物とのコミュニケーションも非常に重要な要素です。人物との対峙の仕方によって、表現は変化します。“人を撮るとはどういうことなのか”にも触れながら、授業を展開していきます。 | | |

| 授業計画 | 回数 | 主題・目的 | 授業予定 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | | オリエンテーション/スタジオ機材の使い方/バック紙のセットの仕方/カメラレンズの基礎 |
| | 2 | | 露出計の使い方/クリップオンストロボの使い方/センチュリースタンドの使い方 |
| | 3 | | 自然光からポートレートライティングを考える/屋外撮影 |
| | 4 | | イメージに合わせてコミュニケーションを取る/紗幕ライティング/天井バウンス |
| | 5 | | モデリングライトで光を見る/ズームリフレクターの使い方 |
| | 6 | | 1灯ライティング（角度、高さ |
| | 7 | | 1灯ライティング（距離） |
| | 8 | | １灯ライティング（光の広がり方、ホットスポット、グリッド） |
| | 9 | | そのとき光は一体どう巡っているのか　～ハード系リフレクターで学ぶ～ |
| | 10 | | ソフトボックスを使った1灯ライティング（ソフトボックスの使い方） |
| | 11 | | ソフトボックスを使った1灯ライティングその２（フェザリング、反射板を使う） |
| | 12 | | アンブレラを使った1灯ライティング（アンブレラの使い方） |
| | 13 | | オパライトを使ったライティング（オパライトの使い方） |
| | 14 | | 身近な人を題材にライティングで魅せる1 |
| | 15 | | 身近な人を題材にライティングで魅せる2 |
| 後期 | 1 | | 多灯ライティングの考え方/トップライト/アクセントライトの演出 |
| | 2 | | 背景を意識したライティング１（バックライト、カラーバック紙への対応） |
| | 3 | | 背景を意識したライティング２（グラデーション） |
| | 4 | | 光量のバランス、クラムシェルライティングその１ |
| | 5 | | クラムシェルライティングその２ |
| | 6 | | 光を回すライティング/切るライティング |
| | 7 | | 全身を写すためのライティング |
| | 8 | | バック飛ばし１ |
| | 9 | | バック飛ばし２ |
| | 10 | | 逆光で柔らかい光を作る |
| | 11 | | 硬い光と柔らかい光のミックス光で撮る１ |
| | 12 | | 硬い光と柔らかい光のミックス光で撮る２ |
| | 13 | | モデル撮影のための準備 |
| | 14 | | モデル撮影 |
| | 15 | | 写真講評　まとめ |

| 評価方法 | 能動的、自主的に授業に参加しているか、クリエイティブな発想で作品づくりを行えているか。 |
|---|---|
| テキスト | |

2026

# 2026 科目ガイド

《特別科目》

日本写真芸術専門学校

特別科目

| 2026 |
|---|

| 区分 | 必修 | 対象 | 全学年 |
|---|---|---|---|

| 科目名 | 特別ワークショップ | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 前後期 | 単位数 | 2※ |
| 講師名 | 本校講師・招聘講師 | | |
| 授業概要 | 時代を象徴する国内外の写真家、業界で注目されているプロカメラマン、新進気鋭のフォトグラファーなどをお招きします。オリジナル作品の本人による解説や出席者の作品講評やワークショップなど、学生自身の創作意欲を高めます。 | | |
| 評価方法 | 出席 | | |
| 備考 | 招聘講師との日程調整が確定次第、メールにて発表します。なお、一部の授業は学外のギャラリー等でも実 | | |

特別科目

| 2026 |
|---|

| 区分 | 必修 | 対象 | 卒業年度生 |
|---|---|---|---|

| 科目名 | 卒業作品集 | | |
|---|---|---|---|
| 開講期 | 後期 | 単位数 | 1※ |
| 講師名 | | | |
| 授業概要 | 作品のセレクトからレイアウトまで、実際の編集作業を体験しながら制作を行い、1冊の作品集としてまとめます。 | | |
| 評価方法 | 提出 | | |
| 備考 | | | |